

身近な花材を利用した生け花支援システムの提案

横窪 安奈[†] 椎尾 一郎[†]

[†]お茶の水女子大学大学院

1 はじめに

日常生活の中に花を取り入れることは、心や感情を豊かにする。そのため、花を多様な材料と組み合わせで構成し、鑑賞する芸術として華道やフラワーアレンジメントなどが、日本のみならず海外でも幅広く好まれている。しかし、華道のような伝統技法は、ほとんどが口承で伝えられており、華道熟達者が華道初心者に示した「型」を繰り返すことで体験的に学ぶ必要がある [1]。そのため、華道初心者が生け花に取り組み、「型」を習得するまでには、長い年月をかけることが重要である。従って、一般的には生け花の作法は親しみにくい存在であり、生け花に取り組むまでに敷居が高いのが現状である。

2 研究目的

本研究では、生け花をより身近にすることを目的とした、生け花支援システムを提案する。

3 生け花支援システムのコンセプト

生け花支援システムのコンセプトは、以下の3つである。

3.1 華道初心者の支援

今日、華道の心や生活文化としての一面が再認識され、必要とされていることから、華道の作法や歴史について詳しく書かれた文献や、華道家元のウェブページが公開されるようになってきた [2]。また、華道コンクールがインターネット上で開催されたりと、ITを用いて華道を広めようとする試みは盛んに行われている。しかし、これらは主に華道経験者を対象としたものであり、華道初心者に対するITを用いたアプローチは、先行研究の数も少なく、未だ発展途上の段階である。そ

こで本システムでは、ITを利用することで華道初心者の支援を目指す。

3.2 生け花のデザインイメージの提供

生け花を美しく生けるためには、花材の大きさや色を上手に組み合わせる必要がある。その方法は多様である。そのため、生け花には知的動作や芸術的感覚が重要であり、表現の場において、初心者には敷居が高い。

Flower Modeling では、ユーザがスケッチをすると、その絵に従った花材が、画面上で3Dとして表示されるシステムを実現した [3]。このように、初心者でも簡単に組み立てるシステムは、近年重要視されている。

そこで本システムでは、生け花のデザインイメージをユーザに与え、ユーザがデザインイメージに従って生け花を生けることで、従来よりも簡単に美しい生け花を作成することを可能にする。

3.3 身近にある花材の利用

生け花を始めるためには、ユーザ自身で花材を用意する必要があるが、花材は種類や色が多様であり、どの花を選んで良いのかわからず混乱してしまうことも多い。

一方で、道端に咲いたタンポポを見たり、記念日にブーケの花を貰ったりと、日常生活の中でも、花を目にする機会が少なからずも存在する。

そこで、日常生活の中で見つけた花を利用できるようにすることで、その花に合う花を提示する。これにより、ユーザにとって生け花をより身近に捉えることを目指す。

4 提案内容

3章をふまえて、華道初心者が生け花に対して抱える問題点を解決するための生け花支援システム提案を行う。

4.1 生け花のデザインイメージの例示

一般的に、美しいデザインイメージを決定することは難しい。しかし、華道ではデザインイメージが構造化されている部分があるため、その部分を参考にし、デ

Proposal of flower arrangement support system using familiar flower material

Anna YOKOKUBO[†], and Itiro SIIO[†]

[†]Ochanomizu University, Graduate School of Humanities and Sciences

112-8610, Tokyo, Japan

{anna.yokokubo, siiio}@is.ocha.ac.jp



図 1: 生け花のデザインイメージ

デザインイメージを例示する [4].

システム内では、花材を選択すると、その花材を使った生け花のデザインイメージを何種類か例示する。提案基準は、花材の色や大きさに合わせたものとする。このイメージを、図??に示す。

4.2 写真撮影した花材の利用

ユーザの手に実際の花材がある場合、机上に花材を置き撮影し、その画像を使用して生け花のデザインイメージを作成する。利用イメージを、図 1 に示す。



図 2: 花材の撮影イメージ

4.3 花材集めの支援

4.2 節で述べたように、ユーザの身近に花材が無い場合、画面上に用意された花材が選択できるようにする。また、その花がどこに売っているかを示した地図を確認することも可能である。

4.4 生け花の手順の提示

生け花のデザインイメージが決定した後、実際の花を生けるために、ユーザが選択したデザインイメージ

の生け花を生ける手順が提示される。その際、花材を使用する割合、つまり、茎を切断する目安を確認することが可能になる。これを図??に示す。

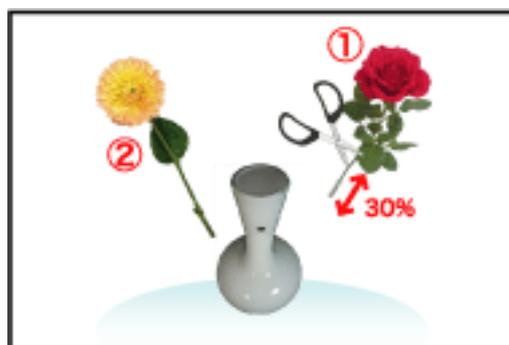


図 3: 生ける手順の表示イメージ

4.5 写真共有のための Web アルバム

ユーザは自身で生けた花を撮影し、生け花支援システムで用意した写真を共有するコミュニティサイトに投稿することで、他ユーザが生けた花を見ることができる。さらにそれらを参考に、創作意欲を向上することも可能になる。

5 まとめと今後の展望

本稿では、「身近な花材を利用した生け花支援システム」を提案した。

今後の展望として、提案内容に挙げられたシステムの実装、及び運用が挙げられる。これにより、現実の華道に近いエンターテインメントシステムの構築を目指す。

参考文献

- [1] 生田久美子:「わざ」から知る, 東京大学出版会, 2007
- [2] インターネット華展: <http://www.ikenobo.jp/>
- [3] T. Ijiri, S. Owada and T. Igarashi : Seamless Integration of Initial Sketching and Subsequent Detail Editing in Flower Modeling, EUROGRAPHICS2006,2006
- [4] 池坊専永: 生花 (これならわかる池坊いけばな), 講談社, 1997